

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **数学** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
数学への関心・意欲・態度	1年	<p>○提出率についてノート99.1%、問題集94.0%、定期考査振り返り83.8%とおおむね満足できる。</p> <p>○授業に対する意欲が高く、前向きな発言が多く見られる。期日を守る意識や問題演習などよく取り組んでいる。</p> <p>○提出率についてノート99.1%、問題集94.0%、定期考査振り返り83.8%とおおむね満足できる。</p> <p>○授業に対する意欲が高く、前向きな発言が多く見られる。期日を守る意識や問題演習などよく取り組んでいる。</p> <p>○提出率についてノート99.1%、問題集94.0%、定期考査振り返り83.8%とおおむね満足できる。</p>	<p>授業に意欲があり課題に協力しながら積極的に取り組んでいるので、継続していく。 わからないことを発信できない生徒が見受けられるので、T2の先生に声をかけていただく。</p> <p>・授業に対する意欲は前向きでよく取り組んでいるので、継続していく。 ・テストの解き直して、わからない問題をそのままにする傾向が見られるので、質問会を実施して対応する。(夏休み実施)</p> <p>・ノートはしっかり取れているので、ノートを見直しする回数を増やして今までの内容を確認する。</p> <p>・数学に前向きな発言や姿勢を認め続けていく。</p> <p>・授業に対する意欲は前向きでよく取り組んでいるので、継続していく。 ・テストの解き直して、わからない問題をそのままにする傾向が見られるので、質問会を実施して対応する。(夏休み実施)</p>			
	2年	<p>○提出物への取り組みは、概ね満足できる状況である。途中式を丁寧に書いたり、間違えたところを言葉でまとめたりしている生徒もおり、主体的に学習に向かう姿勢が見受けられる。</p> <p>○提出物への取り組みもおおむね満足できる状況である。また、途中式を丁寧に書いたり、自分の間違えたところをことばでまとめたりしている生徒もいて主体的に学習に向かう姿勢が見とれる。</p>	<p>・問題に取り組む際には、「なぜ?」という疑問をもちやすいような発問をする。解法に向かうための適切なアドバイスをし、達成感を味わうことで、数学の楽しさを伝える。</p> <p>(発展コース)                  ・授業中、発言する場面が少ないので、生徒が発言しやすい発問を考える。                  ・授業中に質問する生徒が少ないので、机間指導の中でノートを点検し、生徒のつまづきに気づいて解説を行う。                  ・これまで通り、本時の目標を明確にして、取り組ませる。</p> <p>・提出物などに対しての取組はこのまま続けさせる。また、どのように提出物に取り組めばよいかを1学期同様に伝え続けていく。</p> <p>・授業内容の復習などで、分かる・できるという感覚は大事にさせながらその日の内容に入っていくことで意欲を持続・喚起させたい。</p>			
	3年	<p>1学期の達成率の平均を各コースごとに集計したところ、提出物や課題への取り組み具合が習熟度と相関があることがわかった。</p>	<p>発言も多く、積極的に授業をリードしてくれる生徒が多いので今後も継続して授業の雰囲気を作ってもらおう。 取り組まない生徒はいないので、細かい声かけを今後も継続していく。</p> <p>・問題に取り組む際には、「なぜ?」という疑問をもちやすいような発問をする。解法に向かうための適切なアドバイスをし、達成感を味わうことで、数学の楽しさを伝える。</p>			

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **数学** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
		1学期の達成率の平均は、1コースは52.6%、2コースは93.6%、3コースは98.9%であった。提出物や課題への取り組み具合が習熟度と相関がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3コースは、しっかり復習プリントに取り組んでいる。</li> <li>・授業の際に、提出物についても言及するようにしていきたい。</li> </ul>			
数学的な見方や考え方	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲評価では45.4%がCである。学習した内容を活用する力が低い。(習った通りの計算しかできず、工夫して解くことができない。)</li> <li>▲評価では45.4%がCである。学習した内容を活用する力が低い。(習った通りの計算しかできず、工夫して解くことができない。)</li> <li>▲評価では45.4%がCである。学習した内容を活用する力が低い。(習った通りの計算しかできず、工夫して解くことができない。)</li> <li>▲評価では45.4%がCである。学習した内容を活用する力が低い。(習った通りの計算しかできず、工夫して解くことができない。)</li> <li>▲評価では45.4%がCである。学習した内容を活用する力が低い。(習った通りの計算しかできず、工夫して解くことができない。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識理解と技能をベースに、工夫して解くことの良さを理解させる。授業でオリジナル問題をお互いに解きあう場面を作り、自らが考え参加する場面と設定する。</li> <li>・まず知識理解と技能を高め、工夫して解くことの良さを理解させる。授業では1問1答形式やグループ活動を行い、より良い解き方を発見させる。</li> <li>・グループ活動を増やし、意見交換させ、仲間からの考えから新しい見方から理解を深める。</li> <li>・前時のふりかえりの時間を設けることで、基本的な計算のより一層の習熟を図っていく。</li> <li>・まず知識理解と技能を高め、工夫して解くことの良さを理解させる。授業では1問1答形式やグループ活動を行い、より良い解き方を発見させる。</li> <li>・生徒に身近な話題や生徒が興味を持ちやすい話題を例題にしてより深い学びに結びつけ様々な問題を臨機応変に解く力を身につける。</li> </ul>			
	2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○67.6%の生徒がAまたはBである。1章、2章の内容に付いては、既習内容の知識を活用して考える力がついている生徒が多い。</li> <li>▲数の性質など、文字式を用いて説明する問題では、正答率が33%と低い。事象を抽象化して説明することが苦手だと考えられる。</li> <li>○67.6%の生徒がAまたはBである。2学年1章、2章の内容については知識を活用して考える力がついている生徒が多い。</li> <li>▲式を用いて説明する問題では、正答率33%と低く、論理的に説明する力を向上させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決やグループ活動による解決ができるように、適切な見通しを立てさせる。</li> <li>・文字を扱うときには、具体的な数量を考えてから、抽象化するように指導の流れを作っていく。</li> <li>(発展コース)</li> <li>・授業での発問、発展問題を取り組ませ、考える力を深めることができたので、継続していく。</li> <li>・グループ活動を増やし、意見交換させ、仲間からの考えから新しい見方から理解を深める。(小林一彦)</li> <li>・記述で答えることで、より丁寧に生徒の数学的な見方・考え方をみる問題をいれたい。</li> <li>・その際、評価規準を明確にしてから採点にあたり、生徒にとっても分かりやすいテスト問題にしたい。</li> <li>・生徒に対して問いかけ、自分の考えを明確にした上で(分からないということを含めて)他の考えを聞いて理解させる機会を設けたい。</li> </ul>			

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **数学** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
	3年	<p>期末考査での達成率の平均は、1コースは9.5%、2コースは40.4%、3コースは79.0%であった。1コース・2コースでは、学習した内容を活用するところまではたどり着いていない。3コースは、基礎基本の習得のみならず活用する力まで養うことができている。</p>	<p>まずは知識理解と技能の習得を優先させる。応用問題や入試問題のような問題も、すべての習熟度で毎授業触れられるように課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決やグループ活動による解決ができるように、適切な見通しを立てさせる。</li> <li>・3コースでは、ことあるごとに、立式できたらそのわけを説明させて、クラス全体で共有させている。</li> <li>・基礎基本の習得を前提としての活用する力の向上に努めている。継続して、深く考える雰囲気のある醸成に努めたい。</li> </ul>				
数学的な表現・処理	1年	<p>▲定期考査において、計算問題で正答率50%未満が27.1%である。符号によるミスや数字の計算ミスが目立つ。特に分数の通分や小数の乗除が苦手である。</p> <p>▲定期考査において、計算問題で正答率50%未満が27.1%である。符号によるミスや数字の計算ミスが目立つ。特に分数の通分や小数の乗除が苦手である。</p> <p>▲定期考査において、計算問題で正答率50%未満が27.1%である。符号によるミスや数字の計算ミスが目立つ。特に分数の通分や小数の乗除が苦手である。</p> <p>▲定期考査において、計算問題で正答率50%未満が27.1%である。符号によるミスや数字の計算ミスが目立つ。特に分数の通分や小数の乗除が苦手である。</p>	<p>計算の途中式を書くよう指導し、生徒同士でノートを見せ合う場面を多く作ることで、計算の際の符号のミス等に気づきやすいようにする。問題演習の時間にT1、T2の2人で机間指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算技能に特化した夏期補充教室を実施。(1学期期末正答率31.1%が62.1%まで上昇した。)</li> <li>・夏休み課題で220問出題し、課題による質問会を実施。</li> <li>・計算の検算をしっかりと取り組ませる。</li> <li>・計算練習の際に、その都度分数や小数についての復習を入れるようにしている。継続していきたい。</li> <li>・計算技能に特化した夏期補充教室を実施。(1学期期末正答率31.1%が62.1%まで上昇した。)</li> <li>・夏休み課題で220問出題し、課題による質問会を実施。</li> </ul>				
	2年	<p>○定期考査において、連立方程式の計算問題に対して、どれも正答率70%前後であった。基本的な計算力は身に付いている生徒が多いといえる。</p> <p>▲定期考査において、等式を変形する問題に対して、正答率50%未満であった。等式の性質が理解できていないことが原因と考えられる。</p> <p>○定期考査において連立方程式の4つの計算問題に対してはどれも正答率70%前後であることから、連立方程式の基本的な計算の身に付いている生徒が多い。</p> <p>▲定期考査において4つの式の変形の問題に対しては、3つが正答率50%未満であることから、今後も継続的に等式の性質を基に式変形をさせる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容を使って問題を解くことを意識させる。</li> <li>・自力解決やグループ活動による解決ができるように、適切な見通しを立てさせる。</li> <li>・等式を変形する問題は、どのような構成で式が作られているか、正しく評価できるように指導していく。</li> </ul> <p>(発展コース)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算過程がわからず問題に取り組んでいる生徒がいるので、途中式を書かせる習慣を身につけさせる。</li> </ul>				

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **数学** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・何となく解けてしまっている生徒に対しても、なぜそのようにするのかを問うことを大切にしたい。</li> <li>・1コースの生徒にとっては混乱してしまうことも考えられるので、生徒の様子をみながら、どこまで深めるのかを意識しながら授業を進めたい。</li> </ul>			
	3年	期末考査での達成率の平均は、1コースは32.0%、2コースは61.5%、3コースは83.3%であった。1コースは、最も基礎的な計算等の技能は身に付いているが、いくつかの内容を組み合わせるような問題には対応できていない。2コース・3コースでは学習した基本的な計算等の技能はおおむね身に付いている。	演習量を確保するために、毎授業1枚の宿題プリントを全ての習熟度共通で取り組ませている。			
数量、図形など	1年	○評価についてAまたはBが84.1%と授業内容に対しての理解はおおむね満足できる。	理解しやすい板書を目指して授業を行っている。また、板書を取る時間も必ず確保している。指示を細かく出し、生徒が何をすればよいかわからなくならないように意識して声かけを行っている。			
		○評価についてAまたはBが84.1%と授業内容に対しての理解はおおむね満足できる。	・引き続き数学科で情報を共有し、授業進度を確認したり、板書計画の改善を図る。			
		○評価についてAまたはBが84.1%と授業内容に対しての理解はおおむね満足できる。	・数学用語を使って、数式などの説明を多くさせる。			
		○評価についてAまたはBが84.1%と授業内容に対しての理解はおおむね満足できる。	・文字式などの抽象的な内容になっていくので、前時のふりかえりなどで一層の定着を図っていく。			
		○評価についてAまたはBが84.1%と授業内容に対しての理解はおおむね満足できる。	・引き続き数学科で情報を共有し、授業進度を確認したり、板書計画の改善を図る。 ・都度復習を取り入れ、さらに既学習の内容の定着を図り次の単元につなげる。			
	○AまたはBの評価がついた生徒は88.1%であった。数量領域の内容については、正しい知識が身に付いていると考えられる。(河津)	・途中式を書くことやどのようにして解いたのかを説明することを通して、理解が深まっていくことを伝える。 ・発言する際に、できるだけ数学的な用語を使うように意識させる。				

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **数学** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
ついで の知識・ 理解	2年	○評価についてAまたはBが88.1%と授業内容に対する理解はおおむね満足できる。	(発展コース) ・学習したことについての理解力は高いので、確かめるための授業で学習した内容を問う発問を考える。			
	3年	○評価についてAまたはBが88.1%と授業内容に対する理解はおおむね満足できる。	・数学用語を使って、数式などの説明を多くさせる。  ・授業の初めの5分間程度で、ノートを見ながらでよいから挙手をさせて用語などを復習してからその日の授業内容に入る。			
授業改善の検証方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出</li> <li>・単元別テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み明け確認テスト</li> <li>・課題の提出</li> <li>・単元別テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>		
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題	
	<p>授業の課題などの計算過程を生徒の言葉で進めることで、理解したうえで授業が進むようにする。</p> <p>授業開始に「本時の流れ」と「本時のめあて」を提示する。</p> <p>定期考査後の振り返りで、どのような勉強をしてきたのかなどの自己分析を行うとともに次回の定期考査を見据えさせる。</p> <p>定期考査1週間前から放課後に数学学習教室を実施し、全習熟度の生徒をフォローする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算過程において「なぜこのように解けるのか」等の発問を増やし、生徒自らの学習知識から探求させ、理解を深める。</li> <li>・授業開始に「本時の流れ」を提示する。</li> <li>・定期考査後の振り返りで、どのような勉強をしてきたのか、改善が必要なのか等、自分の分析を行う。</li> </ul>	<p>昨年度と授業に関わる数学の教員が変わったが、3年生ということもあり、すぐに慣れて積極的に授業を行えるようになった。</p> <p>昨年度同様、授業に意欲を感じられない生徒はごく稀である。苦手としていても嫌っていないので、その意欲を生かし、習得させたい。</p> <p>1年次から定期考査ごとに振り返りを行っているので、生徒は慣れている。自己分析をすることで新たな課題を自ら設定できるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の発問で、学習した知識が活用されたのがわかり、意欲を向上させることができた。さらに関心をもった生徒は授業後に質問するようになった。</li> <li>・「本時の流れ」から見通しをもつことができた。</li> <li>・各大問ごとに振り返ることができ、次の定期考査で分析結果が活用できているか見たい。</li> </ul>				

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **数学** ) 教科担任名

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
今を 考える 力		(1年)文字式の積のルールを使って、計算の仕組みを説明する。(2年)文章題で求めものが分かり、立式できる。(3年)平方根の積の仕組みを平方数から求められる。  ・計算過程において「なぜこのように解けるのか」等の発問を増やし、生徒自らの学習知識から探求させ、理解を深めさせる。特に、等式の性質を用いて式変形することを通して課題である等式の変形の学習理解度を高めさせる。 ・授業開始に「本時の流れ」を提示する。	(1年)〇積は概ね出来ているが、▲累乗の指数で何を何乗しているか、説明させる。(2年)〇立式は出来るが、▲工夫して、計算できるようになる。(3年)〇積は求められるが、▲平方数がすぐ出せるように九九表をもとに考えさせる。  ・休校期間中を中心に計算練習を多くしたこと、計算技能が向上した生徒が多いこと。 ・「本時の流れ」から見通しをもつことができた。 ・引き続き、計算過程における「なぜこのように解けるのか」を考えさせることで、計算の意味理解を深めさせたい。			
	2年	・授業の始めに、本時の流れとめあてを提示する。 ・問題を解決するために、どうすればよいか見通しをもたせる。また、必要があれば既習内容の復習をする。 ・授業の終わりに、本時のまとめをして、振り返りする。  ・計算過程において「なぜこのように解けるのか」等の発問を増やし、生徒自らの学習知識から探求させ、理解を深める。 ・授業開始に「本時の流れ」を提示する。 ・定期考査後の振り返りで、どのような勉強をしてきたのか、改善が必要なのか等、自分の分析を行う。	○どんな内容を学習するのか、具体的に指示することで、学習に対する意欲を向上させることができた。 ▲授業の終わりに、できるようになったことをまとめる癖がついてきたが、中には「わかった」「楽しかった」などの一言で終わらせてしまう生徒がいる。授業内容に触れるような書き方を指導していく。  ・授業の発問で、学習した知識が活用されたのがわかり、意欲を向上させることができた。さらに関心をもった生徒は授業後に質問するようになった。 ・「本時の流れ」から見通しをもつことができた。 ・各大問ごとに振り返ることができ、次の定期考査で分析結果が活用できているか見たい。			
		(1年)文字式の積のルールを使って、計算の仕組みを説明する。(2年)文章題で求めものが分かり、立式できる。(3年)平方根の積の仕組みを平方数から求められる。  ・計算過程において「なぜこのように解けるのか」等の発問を増やし、生徒自らの学習知識から探求させ、理解を深めさせる。特に、等式の性質を用いて式変形することを通して課題である等式の変形の学習理解度を高めさせる。 ・授業開始に「本時の流れ」を提示する。	(1年)〇積は概ね出来ているが、▲累乗の指数で何を何乗しているか、説明させる。(2年)〇立式は出来るが、▲工夫して、計算できるようになる。(3年)〇積は求められるが、▲平方数がすぐ出せるように九九表をもとに考えさせる。  ・休校期間中を中心に計算練習を多くしたこと、計算技能が向上した生徒が多いこと。 ・「本時の流れ」から見通しをもつことができた。 ・引き続き、計算過程における「なぜこのように解けるのか」を考えさせることで、計算の意味理解を深めさせたい。			
		授業の課題などの計算過程を生徒の言葉で進めることで、理解したうえで授業が進むようにする。 授業開始に「本時の流れ」と「本時のめあて」を提示する。 定期考査後の振り返りで、どのような勉強をしてきたのかなどの自己分析を行うとともに次回の定期考査を見据えさせる。 定期考査1週間前から放課後に数学学習教室を実施し、全習熟度の生徒をフォローする。	昨年度と授業に関わる数学の教員が変わったが、3年生ということもあり、すぐに慣れて積極的に授業を行えるようになった。 昨年度同様、授業に意欲を感じられない生徒はごく稀である。苦手としていても嫌っていないので、その意欲を生かし、習得させたい。 1年次から定期考査ごとに振り返りを行っているので、生徒は慣れている。自己分析をすることで新たな課題を自ら設定できるようにしていく。			

# 令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 ( **数学** ) 教科担任名 \_\_\_\_\_

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
	3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の始めに、本時の流れとめあてを提示する。</li> <li>・問題を解決するために、どうすればよいか見通しをもたせる。また、必要があれば既習内容の復習をする。</li> <li>・授業の終わりに、本時のまとめをして、振り返りする。</li> </ul> <p>(1年)文字式の積のルールを使って、計算の仕組みを説明する。(2年)文章題で求めものが分かり、立式できる。(3年)平方根の積の仕組みを平方数から求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算過程において「なぜこのように解けるのか」等の発問を増やし、生徒自らの学習知識から探求させ、理解を深めさせる。特に、等式の性質を用いて式変形することを通して課題である等式の変形の学習理解度を高めさせる。</li> <li>・授業開始に「本時の流れ」を提示する。</li> </ul>	<p>○どんな内容を学習するのか、具体的に指示をすることで、学習に対する意欲を向上させることができた。</p> <p>▲授業の終わりに、できるようになったことをまとめる癖がついてきたが、中には「わかった」「楽しかった」などの一言で終わらせてしまう生徒がいる。授業内容に触れるような書き方を指導していく。</p> <p>(1年)○積は概ね出来ているが、▲累乗の指数で何を何乗しているか、説明させる。(2年)○立式は出来るが、▲工夫して、計算できるようになる。(3年)○積は求められるが、▲平方数がすぐ出せるように九九表をもとに考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休校期間中を中心に計算練習を多くしたこと、計算技能が向上した生徒が多いこと。</li> <li>・「本時の流れ」から見通しをもつことができた。</li> <li>・引き続き、計算過程における「なぜこのように解けるのか」を考えさせることで、計算の意味理解を深めさせたい。</li> </ul>			